

「主の御名は全地にわたる」
詩篇8篇(宣教要旨)
説教者 A.Na



私たちが日々ささげる賛美について、今回は詩篇8篇を通して考えていきたいと願います。

《私たちの主への賛美(1,2節)》

主の御名をほめたたえつつ、主の御力の偉大さと主のご威光、ご栄光が地に満ち、また天でたたえられていることをおぼえ、私たちは天を見上げ主の御前にひれ伏す。

そして、天でたたえられている主のご栄光は、地においてもたたえられる。また、この地上で主に賛美をささげる者とは、「幼子たち、乳飲み子たち」である最も弱い者である。

この小さく弱い者が主に賛美をささげる口を通して、敵対する者、不信仰な者にも神の御力を打ち立てられる。「幼子たち、乳飲み子たち」の口を通して、主ご自身の御力とし、敵対する者を防がれる(Ⅰコリ 1:26,27)。

また、子どもたちが「ダビデの子にホサナ」と叫ぶのに対して腹を立てる祭司長たちや律法学者たちに対して、敵対する者に応え、鎮められた(マタイ 21:16)。

《創造主なる主、そして人とは(3,4節)》

天地万物を創造された主への賛美。ダビデは、自分のような小さく弱い者を主が心に留められ、顧みてくださることに驚きつつ、創造主に問いかける。

主は、私たちが自分の小ささを知り、創造された世界は主の「指のわざ」であり、繊細でありつつも偉大なみわざであることをおぼえ、御名を賛美することを求めておられる。

《栄光と誉れの冠、切手の統治(5-8節)》

神のかたちとして創造された人間は、地のすべてのものを従わせるようにとされた(創 1:26,27)。

栄光と誉れの冠…人間に与えられた特権の象

徴であり、神の臨在の現実的表現(詩 104:1,96:6)であり、王の権威の表現としても用いられる。神は人間に、この地のすべてを管理する大きな権威をお与えになりました。神は私たちが神のしもべとして責任ある者としてくださった。

また、ヘブル人への手紙の著者は、キリストが「御使いよりもわずかの間低くされ」、人となられ、地上での歩みを人として過ごされ、その不自由さと痛みや苦しみ、そして死を味わわれ、その後復活し昇天によって神の右の座につかれたと語る(ヘブル 2:6-9)。

パウロは、キリストの復活と昇天により、キリストの統治権が完成したことを示す(Ⅰコリ 15:24)。

今一度、私たち人間に与えられている大きな権威と責任をおぼえつつ、キリストを見上げ賛美をおささげしたい。

《主の御名をほめたたえよ(9)》

主が創造された人のあるべき姿、神のかたちである人に与えられた被造物の管理者という大きな権威と責任をおぼえるとき、ただただ私たちの主をほめたたえずにはいられない。また、今このみことばを聴く私たちは、単に主の偉大さを賛美するばかりでなく、イエス・キリストが人間の罪の世に低く降りてこられ、人間にある痛みや空腹、生活のすべてを経験され、十字架上で死と復活の贖いのみわざをなされ、また天へと高く戻られたことをおぼえ、そのご威光をほめたたえるのである。

《今みことばに聴く私たちは…》

私たちは地のちりに過ぎない、小さく弱い者たち。主がこの私に心を留め、今日も愛し顧みてくださる。

主の御名は全地にわたり、力に満ち、ご威光は天でたたえられている。小さな幼子であり乳飲み子であり、主に頼るしかない私たちが、今日も主を賛美するものとしてくださる主に感謝して、御名をほめたたえましょう。